

ようこそ姫路へ!ボランティアガイドがご案内します。

世界文化遺産・国宝・姫路城周辺ルート[その2]

城巽・城南ウォーク

じょうそん

じょうなん

コース

所要時間約2時間



世界文化遺産・国宝・姫路城

姫路城は、徳川家康の嫡孫池田輝政が8年かけて1609年に完成しました。濠と土塁を螺旋状にめぐらせたこの城郭は、渦郭式縄張りといわれています。この城郭は、江戸城と並び非常に珍しい形態です。内濠内には、城主の居敷や藩の仕事をする役所があり、中濠内には、侍屋敷。外濠内には、町屋や身分の低い侍屋敷・足軽・同心などを住まわせて、守りを固めておりました。姫路城が国宝に指定されたのは、昭和6年。世界文化遺産には、平成5年12月に登録されました。

大手前公園

- 1 姫路藩藩校「好古堂跡」
 - 2 播磨国総社
 - 3 鳥居先門跡
 - 4 総社門跡
 - 5 木綿会所・切手会所跡
 - 6 国府寺本陣跡
 - 7 中門跡
 - 8 高札場跡
 - 9 那波本陣・三木本陣跡(脇本陣)
 - 10 長壁神社
 - 11 十二所神社・お菊神社
 - 12 大蔵前公園(勤王志士終焉の地の碑)
 - 13 船つき場跡
 - 14 備前門跡「外堀の割るる音あり、冬の月 小林一茶」
 - 15 旧山陽道
 - 16 埋門跡
 - 17 千姫の小徑
 - 18 車門跡
 - 19 船だまり跡
 - 20 市の橋門跡
 - 21 好古園(好古堂跡)
 - 22 世界文化遺産・国宝・姫路城
- 大手前公園

① 姫路藩藩校「好古堂跡」

好古堂とは、今の公立学校にあたり、姫路城主であった酒井家が、上野国(今の群馬県)から姫路への国替えの際、会所跡に好古堂を設置した。ここでは、儒教を中心とした学問の他、剣術・美術などの武芸、後に、天文学・医学も教えられた。その後、好古堂は現在の好古園の場所に移され、明治の初めまで続いた。

② 播磨国総社(播磨国総社射楯兵主神社)

平安末期、播磨国内16郡から174座の神々を集めて祭ったという由緒正しい神社です。釣鐘は、室町時代に守護赤松氏が寄進したもので、ほぼ500年が経っている。年間の神事は多く、「霜月祭」や「一ツ山大祭(61年毎開催)」、「三ツ山大祭(21年毎開催)」などがあり、播州一円から多くの参詣者(さんけいしや)が訪れます。



③ 鳥居先門跡

播磨国総社の南の鳥居の前に設けられた鳥居先門は、祭り以外は開けなかったそうです。この門の前の中濠には、大きな太鼓橋が架かっていたそうです。

④ 総社門跡

総社の西門筋にあつたのでこの名が付けられました。形状は、中の門に似ていて、石垣の一部は、現在も残っております。

⑤ 木綿会所・切手会所跡

会所とは、藩札を発行していた役所のひとつです。当時、財政難だった藩の建て直しを任された家老「河合寸意(かわいすんのう)」が、藩の特産であった木綿に目を付け、専売制度を導入した木綿会所・切手会所を設け、姫路藩の建て直しに成功致しました。

⑥ 国府寺本陣跡

本陣は、江戸時代の大名や幕府の役人・勤使などが宿泊した公認の宿のことをいいます。

⑦ 中門跡

中曲輪正面五門の中央から「中門」と名付けられました。外門は南向きに建てられた「臨門付高麗門」、内門は東向きに建てられた「臨門付橋門」、中濠に土橋が設けられ、外門の外に出番所、内門に大番所が設けられました。さらに、内門に接して単層の櫓も設けられておりました。

⑧ 高札場跡

法度・提書などや重罪人の罪状を書き、人目をひく所に高くかけた板札のあった場所のことで、「札の辻」ともいいます。

⑨ 那波本陣・三木本陣跡(脇本陣)

那波・三木両本陣は脇本陣で、江戸時代、大名の供人が多くて本陣に宿泊できない時、予備にあてた宿のことです。

⑩ 長壁神社

当神社は、播磨国大社24社の一つとしてしるされ、1150余年の昔、現在の姫山に地主の神として、播磨国榎木井の大領角野氏によって建てられた。毎年6月22日から3日間「ゆかた祭り」で知られるこの神社は、代々城主の守護神として城内に祀られていた長壁神社を一般の人々も気軽に参拝できるようにと考えられ、現在の地に遷されました。

風流大名として知られる榊原政孝が、越後の高田に移付される最後の思い出に、また、この地の華やかな行事として永久に残すため、江戸・吉原から連れてきた高尾太夫から「江戸・神田の明神祭」の祭り話を聞き、高尾太夫と共に自らゆかた姿で浮かれ出たのがこの祭りの始まりといわれております。

今宵より街は浴衣の姫路かな 白陵

⑪ 十二所神社・お菊神社

十二所神社は、姫路城の鬼門にあたる未・申の方向に造られた神社で、城主が毎年盛大な祭りを開催したそうです。戦前は郷社として、播磨国総社と並び称された大宮でありました。また、関西一といわれた当神社の藤の花が咲くころには、遠方からそれを楽しむ多くの人が、集まったといわれております。

お菊神社は、主家乗っ取りの陰謀をおびた忠臣・衣笠元信の妻・お菊がその策略にはまり無念の死を遂げた後も霊となって、なお、家宝の血を数え続けるという「怪談・播州血屋敷お菊物語」の主人公「お菊さん」を祭った神社として有名です。当時の社殿は、室町風の珍しい建築様式の神社であったが、戦災で焼失し、現在の社殿となった。今でも、社殿にはお菊虫や木像などの遺物が祭られている。





⑫ 大蔵前公園

近くに「船つき場」があり、その運んできた物資を保存するためこの地域に大きな蔵が数多く造られたことにより名付けられた町名で、公園の名称として今も残されている。

⑬ 船つき場

江戸や大阪から館麁港に運ばれてきた生活用物資を、船場川を往来していた高瀬船で運び、その物資を降ろした所である。

⑭ 備前門跡

この門は、備前に通じる道に設けられました。当時、旅籠屋や人足小屋が軒を並べ、大変賑わった地域です。寛政9年12月、小林一茶2度目となる西国の旅で姫路に立ち寄り、この門の前で詠まれた一句です。

外堀の割るる音あり 冬の月 一茶

一茶35歳のとこといわれております。

⑮ 旧山陽道

参勤交代による大各行列や商人達が往来した西国街道で、あちこちに当時の雰囲気残り、楽しむことができます。この街道には、高札場や本陣・市場などの跡が残っております。明治時代に架けられたといわれる「西国橋」なども有名です。

⑯ 埋門跡

船場川沿いに設けられた城門で、外門と内門は、両向きで中濠に土橋が架けられておりました。外門は、脇門付高麗門。内門は、脇門付櫓門。南西には、二重の埋門櫓を付しております。通常、埋門といえば高低差を利用して土砂で埋め、敵軍の侵入を防ぐことを目的とされておりますが、この門は、裏鬼門にあたるため、門を開くことを忌み嫌われた備前門を守るため、通路として利用されておりました。

⑰ 千姫の小径

中濠と船場川に挟まれた遊歩道のことで、平成に入って名付けられました。水辺には白鷺が羽を休め、春には桜、初夏には菖蒲と四季を楽しむことができます。

⑱ 車門跡

中濠沿いにある11門の一つで、二重櫓形の門です。門の前には、木橋が架けられておりました。

⑲ 船だまり

江戸や大阪から館麁港に運ばれてきた生活用物資を、船場川を往来していた高瀬船で運び、船つき場で物資を降ろした後、待機していた所です。

⑳ 市の橋門跡

この門のすぐ西にある市の橋にちなんで名付けられました。この門は、外濠に最も接近した門として知られております。

㉑ 好古園(好古堂跡)

好古園は、姫路市政百周年(昭和63年)を記念して造成され、平成4年に開園した「池泉回遊式日本庭園」で約1万坪あります。

榊原政孝が江戸・吉原から落籍した高尾太夫を住まわせていたといわれている西御座敷跡に造られた「御座敷の庭」や数寄屋建築の茶室・双樹庵のある「茶の庭」、流れの平庭・夏木の庭など9つの趣の異なる庭園群で構成されています。

この好古園の愛称は、藩主酒井家によって造られた藩校「好古堂」に因んで名付けられました。



■ 参 考

中濠通り

昭和7年2月の国道2号線建設の際、埋められたため「中濠通り」として名称が残されている。

くまたか門跡

中曲輪南側の西方にあり、本町と坂元町との境に設けられた門です。中濠には、土橋が架けられ、外門は脇門付高麗門、内門は脇門付櫓門。外門には、番所がありました。

